

加西市都市計画マスタープラン 「未来のまちづくりワークショップ」

1 日時：令和4年5月29日（日）14:30～17:00

2 場所：加西市役所 1階 多目的ホール

3 参加者：11名（A班・北条：4名、B班・加西：3名、C班・泉：4名）

4 スケジュール：

時間	内容
14:30～14:35	1. 開催あいさつ
14:35～15:00	2. 概要説明 ・都市計画マスタープラン及びワークショップの進め方 ・オンラインホワイトボード「MURAL」について 講師：釧持祐介氏（Special Operation Design 株式会社） ・インプットセミナー ～スマートシティにまつわる事例と傾向～ 講師：早川慶朗氏（加賀市スマートシティフェロー）
15:00～16:20	3. ワークショップの実施 ・自己紹介 ・ターゲットとプレイスのピックアップ ・困りごとを可視化しよう ・取組む課題を決定しよう ・取組課題を3つ選ぼう
16:20～16:35	4. 全体発表
16:25～16:30	5. まとめとフィードバック 全体統括
16:50～16:55	6. 閉会あいさつ

5 配布資料：

- ・次第
- ・ワークショップ説明用資料（未来のまちづくりワークショップ）
- ・地域カルテ
- ・交通施設整備の方針図、地域資源（施設等）の分布

6 ワークショップの概要：

市民 11 名が参加し、A 班・北条、B 班・加西、C 班・泉の 3 班に分かれて「未来のまちづくりワークショップ」を開催した。

都市整備部都市計画課・安福課長による開会あいさつ、事務局による都市計画マスタープラン及びワークショップの進め方の説明、作業ツールとして用いるオンラインホワイトボード「MURAL」の説明、インプットセミナーとして「～スマートシティにまつわる事例と傾向～」に引き続き、各班に分かれて、次の 4 つのステップでグループワークを行った。

ステップ①「ターゲットとプレイスのピックアップ」

参加者 1 人ずつが直感的にスマート化の対象としたいターゲットとプレイスをピックアップし、何故それが気になったかを各自が発表しながら討議した。

最後にそれぞれ 4 つに絞り込んで決定した。

ステップ②「困りごとを可視化してみよう」

ステップ①で決定したターゲットとプレイスを縦横に置き、それぞれの困りごと（想像したもの、聞いたことがあるもの、データから分かるものなど何でも）を書き込んだ。

ステップ③「困りごとを評価して、取り組む課題を決定しよう」

困りごととして共通性のある項目を、グループ化して表題を付け、縦軸に影響度、横軸に解決までの距離感を取った座標上に配置し、項目に出て来た問題を評価。

どの問題が「未来志向（影響度：高、解決までの距離感：未来）」か「実装志向（影響度：高、解決までの距離感：今できる）」を把握した。

ステップ④「決定した取組課題」

重要度を討議して、3 つの取組課題をピックアップした。

1 時間半程度、グループワークを行った後、各班で決定した取組課題や、その結論に至ったプロセスなどについて、A 班から順に発表した。

<まとめとフィードバック、全体統括>

発言者	内容
<p>釧持祐介氏</p>	<p>各班の結果まとめ（発表）とフィードバック</p> <p>発表準備はよろしいですか。自分の班以外のものを聞いて、「こういう視点があった」、「自分の地域以外は、こういうことに困っている」など認知をしていただけると、より加西市の抱える課題が共有出来ると思う。</p> <p>ここは一旦、今日の結論だと思うが、これが全てではない。正解ということではない。ただ、この時間に初めて会った人たちが、これだけの加西市の困りごとを共有出来る。その思いを是非とも形に残して、これからの都市計画に活かしていくためのデータとして、決定した課題を発表して、他の班のものも良く聞いて、考えを深めていただければと思う。</p> <p>A、B、Cの順で発表をお願いしたい。結論から、何故その結論に至ったのか、作られた資料のプロセスなどもお話いただき、こういうことが課題と思ったのは何故なのかもお話いただければありがたい。</p>
<p>A班・北条</p> <p>発表者①</p> <p>発表者②</p>	<p>取組課題：「学校、体験」、「子供医療」、「Uターン」、「見守り」</p> <p>私たちの班は女性が多く、子育てや見守り、Uターンなどの話題、課題が出たが、私は「学校、体験」を選んだ。小学生と幼稚園の子供が居るので、学校について思ったのは、少子化が進んで学校の存続が危うい地域もある。これからの学校についてどうなっていくのかというところから、学童保育にも行っているので、年齢制限もあり子育て世帯がだんだんしんどくなってきている。仕事をしないといけないが、子供を見てくれる人が居ないという人が増えて来ると思う。なので、人口増に繋がりにくいのかなと結論付けた。</p> <p>体験では、子供が軽度の知的障害を持っていて支援学級に行っているが、そこで出会った療育や発達先生の先生から聞くと、体験や経験は、その子供たちにとっては全てだと言われていて、障害の有無に関係なく、子供にとっての体験経験はとても大切だと思う。1つ1つが、自分が過ごしている生活の中で役に立っていることがたくさんあると思うので、それが夢や仕事に繋がるので、とても重要なことだと思う。</p> <p>加西市も、そのような体験経験を活かした、体験村みたいなものが出来たら良いなという話が出た。</p> <p>私は「子供医療」という分野で書いた。まず、加西市には産婦人科がないということが、子育て世帯からすれば大問題。それでは加西市から離れて行くという考えに結び付きやすいと思う。産婦人科医、産婦人科が戻ってきてくれたら若い人たちも来るし、最近だと加西市の5つの無料化で、0歳児から保育料無償化は、明石市よりも長けたところではないかと思うが、そういうところをもっと市外にも発信して行けば、若い人たちがもっと加西市内で住み、加西市が盛り上がって、加西市でお金をたくさん落としてもらったら、もっと加西市の施設や学校もより良く作っていただければいいのではないか。</p>

<p>釘持祐介氏</p>	<p>由として、例えば、人に空き家を貸すことをネガティブに周囲から見えるのではないかということもある。空き家を活用すること自体が、貸主にとっても借りる人にとっても名誉になって行くような仕組み作りが出来る、もっと空き家の活用が変わって来るのではないか。</p> <p>「農地×若者、女性」、先ほどの空き家の話と同じで、農地もこれからどんどん空いて来るという現実がある。その中で現行制度で農業を始めるとなれば 1 歩目のハードルがそもそも高いことがある。もう少し、女性や若者みたいな方々が気軽に農業を始められるようにして、それが後に稼げるような、副業なり何なりで稼げるようになって来れば、もう少し耕作放棄地問題も解決されるのではないかという話だった。</p> <p>こちらの班の話の横で聞いていると、色々と新しいことにチャレンジされている方が集まって、すごく議論が活発になっていたと思う。</p> <p>新しいことにチャレンジして行こうとするので面白かったのが、既存のすごく伝統的なコミュニティが非常に強いという事実がある点。これを課題と捉えるか、そのまちの非常に良い点と捉えるかは、捉え方による気もするが、新しいことに何かチャレンジして行こうとする時、例えば、「空き家の活用をポジティブにしていきたい」という時にもある、地域の方ともっと交流をしたいが、新しい人が入って来ると様子を伺われてしまう、壁を作られてしまうというような話。</p> <p>これはすごく昔ながらのコミュニティ、非常に大切にしていかなければならない文化だとは思いますが、新しいことにチャレンジして行こうとする時の、1つの障壁になっているのかという気もした。バーチャル町長や、そういうバーチャルでのフィールドを作ることにより、これらの古い組織体、ちょっと固くなってしまっている組織体を打ち崩して行こうという、そこまで考えられているという点が、非常に面白い結果になったと思う。ありがとうございます。</p>
<p>C 班・泉</p> <p>発表者</p>	<p>取組課題：「商業の充実」、「新しい農業」、 「安全な道路交通 便利な道路網」</p> <p>C 班、泉町です。皆さん色々なイメージを持たれているかと思うが、イメージ通り、加西の中でもより田園風景が色濃いところ。その中で泉町の者として、最初の意見出しで自分のことばかり考えて飲食店がないなどを言っていたが、そこから意見を出した時に、基本的に農業が盛んで、農地がいっぱいあり、その中から新しい農業を提案してはどうかなど。</p> <p>ご存知だと思うが、農業はしんどくて融通が利かなくて大変でというようなことで、それをどうにか楽に出来ないか。農業をもっと魅力あるものとして、特に住んでいる地域の子供たちが、農業に対して興味を持ってもらった上で、かつ理解をしてもらう。それで大人になって出て行っても、またそこで広めてもらうなり帰って来てもらうことも大事なのでは。</p> <p>そういった中から、食育に目を付けた。この食育は、我々が子供の頃から手伝わされてみたいなのもあるが、体験よりもう 1 歩踏み込んだ、</p>

<p>釘持祐介氏</p>	<p>最後は食べるところまで入る、面倒くさいこともやりながら、きっちり出来たものをきっちり美味しくいただく。そこに他の意見が付随していく。食育をする、美味しく食べるために有名な料理人に作ってもらおうとか、子供たちが安心安全に農業をしてもらうために、先進的な、もう少し技術的にテクノロジーを入れたような農業が必要になってくるのでは。そういうところからお店が出て来るかも知れない。作って出来た農作物を販売する、ふるさと納税にしたものを原資に、シルバー人材を雇って草刈りをしてもらい、朝の早起きを止めよう。そういうちょっとずるいことも考えながら、皆で楽しくさせていただいた。</p> <p>農業というものから付随する商業、それから子供たちが安心安全に過ごせる道路作り、これを発信して行く、もしくはこういう体験をしてもらうために来ていただくような道路網。そういったものが我々の、泉町としての目指すべきところ、いきなり神戸のようにはなれないので、ここは農業を日本一、世界初にして行きたいと思う。</p> <p>そのような形で、自分の子供でもそうだが、出来たら大人になって草刈り機の1つでも使えないのと言えるような、スキルの高い子供たちを育てて行きたいと思う。</p> <p>ありがとうございます。農業という視点が良く話されていた。まさに農業に従事されている方がいらっしゃいますので、このようなお話になったのかと思う。</p> <p>例えば、先ほどのA班のお話で、まちを特徴付けて子供が楽しい、あるいは一旦出て行った人も戻って来なくなるような魅力付けが必要ではないかということがあったが、その中の1つの可能性として、やはりこのまちの特徴である農業というもの。食育という、かなり具体的なアイデアも出していただいた。そういったところも、コンテンツになっていく可能性も示していただき、議論の中にあっただが、農業にロボットやデータを活用して行くことで、スマート化をして行く。これも1つの加西市らしい、もしかするとスマートシティ、スマート化の特徴付けになる可能性も感じた。</p> <p>実際に生活をされていると、商業や楽しむ場所がなかなかないというのは、非常に多く議論されていたかと思う。ここも面白かったが、農業&商業の日本初の施設、食育にも繋がるような気もするが、何か特徴付けというものが商業と農業の融合で出来る、そのような可能性も示していると思う。</p> <p>それらをお客様に、いろいろと活発に動かして行くためには、やはり道路網や交通も、ベースの課題にあるということを出していただいた。</p>
<p>釘持祐介氏</p>	<p>全体統括</p> <p>このように、各班様々な課題が出されたかと思う。</p> <p>A班は、まちの特徴、魅力付け、これが人口や子育ての問題になって行くのではないか。でも、コンテンツ作りや情報発信のフィールドが、スマートシティの文脈の中で実装されると解決するのではないかというよう</p>

な可能性が示された。

B 班は、新しいコミュニティをどう発生していくかというお話。VR のプラットフォームや交流の場というものを新しく作っていくという具体的な意見が示された。

C 班は、まちの特徴として、1つは農業というものが活用出来るのではないかという可能性。もちろん、農業自体の課題を解決するために、スマートシティ、テクノロジーを活用して行くこともある。加西市の1つの特徴として行くのであれば、農業を活用したコンテンツ開発などにも繋げることが出来るのではないかという可能性が示された。

このように、実際に皆さんが普段、思っけてもなかなか、家でお酒を飲みながら、あるいは同僚の方と居酒屋で消えてしまうような会話の内容かも知れない。でも、これを実際、このように形に、データに残して行く。これは定性的なデータと呼ばれるもので、アンケートや交通量などの定量的な調査だけでは見えてこない、非常に重要な、まちの方々が感じている情報データだと思う。

今日、皆様に出していただいたこれらの課題を、今後の都市計画マスタープランのまちづくりに活用して行く。それから、この課題を解決していくための具体的なアイデア、もちろん都市のハード的なもの、あるいは情報ソフトウェアといった仕掛けで解決して行かねばならないこと。また、この課題の中には実装が遠いかも知れない、ここに挙げたことは、やはり行政、法律というところも含めて解決して行かなくてはいけない課題が示されたとも思う。

やはり、予算、時間、色々なことがあり、解決して行く順番をこれから吟味しないといけないが、今日いただいた課題をしっかりと受け取っていただき、これからのまちづくりに活かして行く。また、このまちづくりのアイデアをワークショップ形式で吸い上げる、アイデアを広げて行く。今日は課題を吸い上げるところまでで、具体的にアイデアにして行ったり、より洗練させた仕掛けにして行くことは、また、ワークショップとして企画されるかと思う。是非その時は、ご参加いただきながら、今回のこの課題を、どのように実装して行くか。そのフェーズでも是非ご協力をいただければと感じた。

皆さん、日曜のこのお時間ありがとうございました。普段なかなかやらないワークで、疲れた部分もあるかと思うが、今日のお話があったことを1つのきっかけにして、まちの課題、地域の課題、自分以外の課題にも少し目を向けて、これからの生活を進めていただければと思う。ありがとうございました。

以上

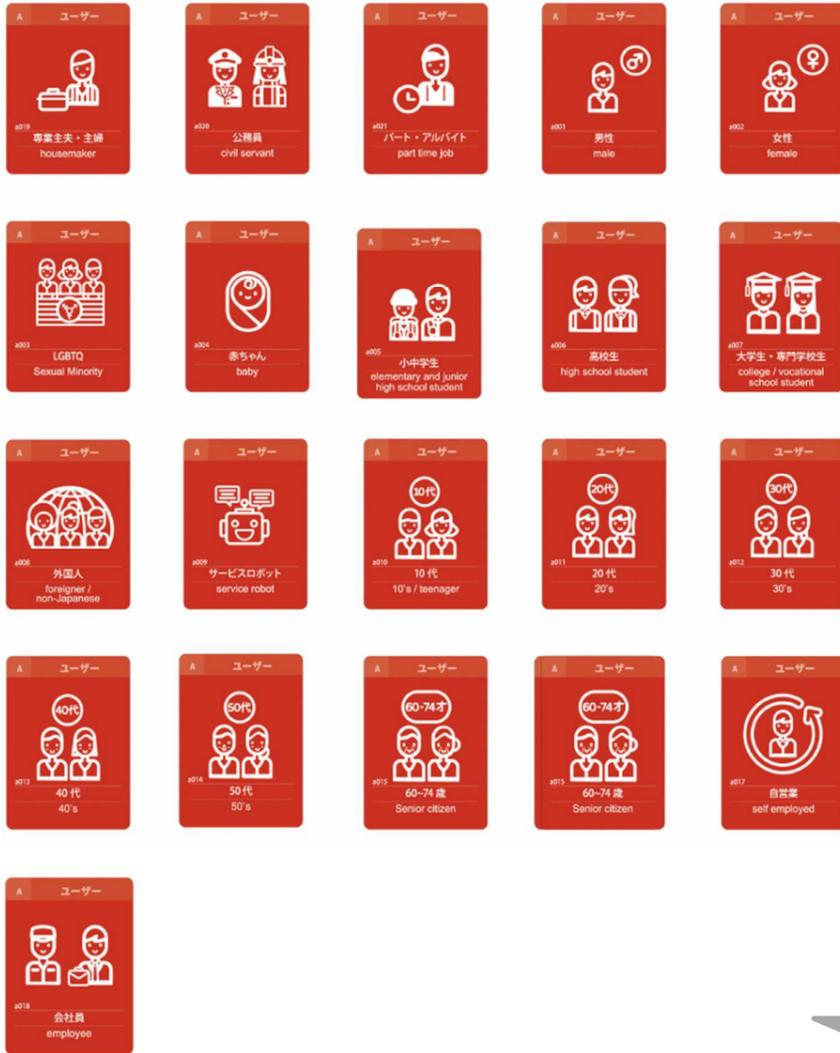
ステップ①ターゲットとプレイスのピックアップ:

- ・まずはひとりずつ「直感的に」スマート化の対象としたいターゲットとプレイスをピックアップして右のマスに入れてみてください。
- ・なんでそれが気になったか？ 発表しながら議論して、最後はみんなでそれぞれ4つにしぼって決定してください。
- ・人によって気になっている対象が違うことや、自分では気づいていなかった問題意識に目を向けてみよう。

一人ひとつずつずつ選んでください

カードをコピーし右のマスに移動してください

ターゲット

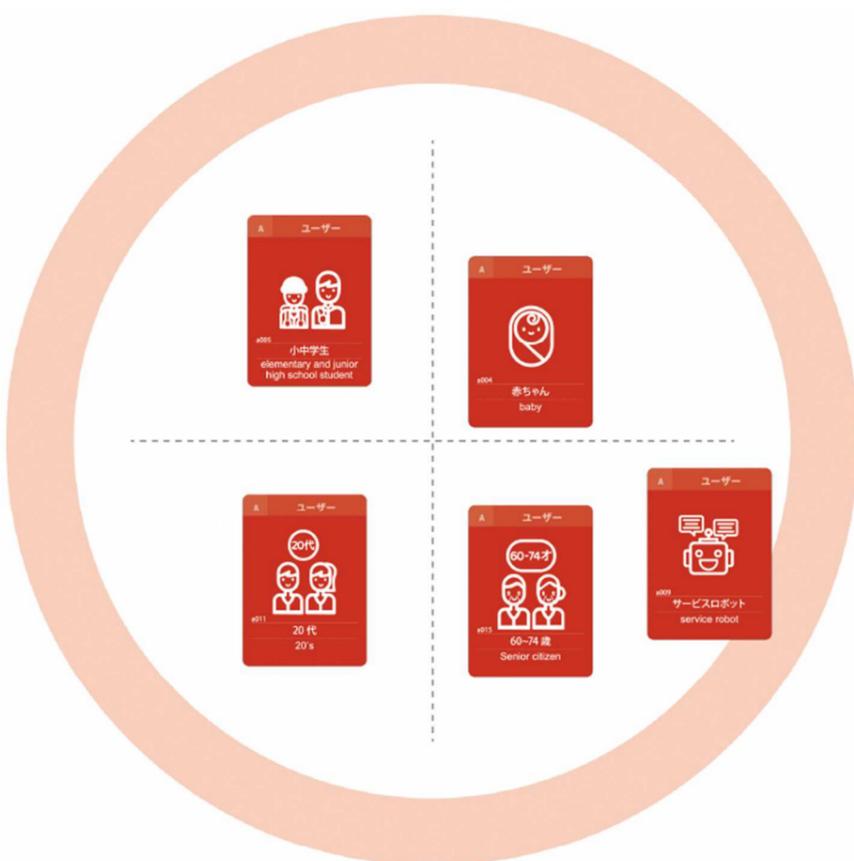


プレイス



決定カード

なぜそのカードを選んだのか？ 発表して共有してください。
決定ターゲット 4つ 決定プレイス 4つ



最後は議論して4つずつ決定してください。

ステップ②：困りごとを可視化してみよう： 25min

・①で決めたカードを縦横に置いて、それぞれの項目に困りごとを書き込もう（想像、ヒアリング、データからでもなんでも）

どんな困りごとがあるか？（想像、インプットから、普段の生活から）

プレイス	プレイス	プレイス	プレイス	プレイス
ターゲット	河川 river	病院 hospital	公共空間（公園等） public space	勤務先・職場 workplace
サービスロボット service robot	自然の中にも連絡できる ロボットがあれば	会計自動化	困りごとを自分の経験、 想像、ヒアリング、デー タから書き込もう	リモートワークの施設が できたが、利用が少ない。 働き方のイメージが湧 いていない？
小中学生 elementary and junior high school student	学校の数が少ない 心置きなく夏休みできる 水遊びできる場所がない	ネットで調べて小児科受 診しても臨時休業になっ ていることがある	子供たちが「遊べる公園 が少ない 体験みたいなのが欲しい 情報の発信機能が弱い	発達障害の子たちが自立 し「仕事ができるように なるまでのステップが欲 しい
赤ちゃん baby	家族揃ってでかけられない BBQができる場所など 若者が集える場所が ほしい	産婦人科がない	一つの場所に年代別で遊 べる場所がない 多世代の子どもが遊べる 公園	子育て世帯に対して 柔軟に対応する
20代 20's	町内の管轄する河川・た め池等の用地の管理（草 刈り等）の負担 BBQができる場所など 若者が集える場所が ほしい	病院施設が老朽化してい るため、病院にかかる際 に市外の新しい病院を選 んでしまう	遊びに行くのに不便 自家用車必須 →ガソリン高騰が痛い	就職の選択肢が少ない ため、一度市街に 出ると戻ってこない
60-74歳 Senior citizen	どこにいても必要な場所 に自分の居場所が連絡で きれば安心		移動手段の確立が難しい	知識を生かして若者に貢 献していける充実した人 生 見守り協力

発想に困ったら、このカードを置いて
シチュエーションを想像してみよう

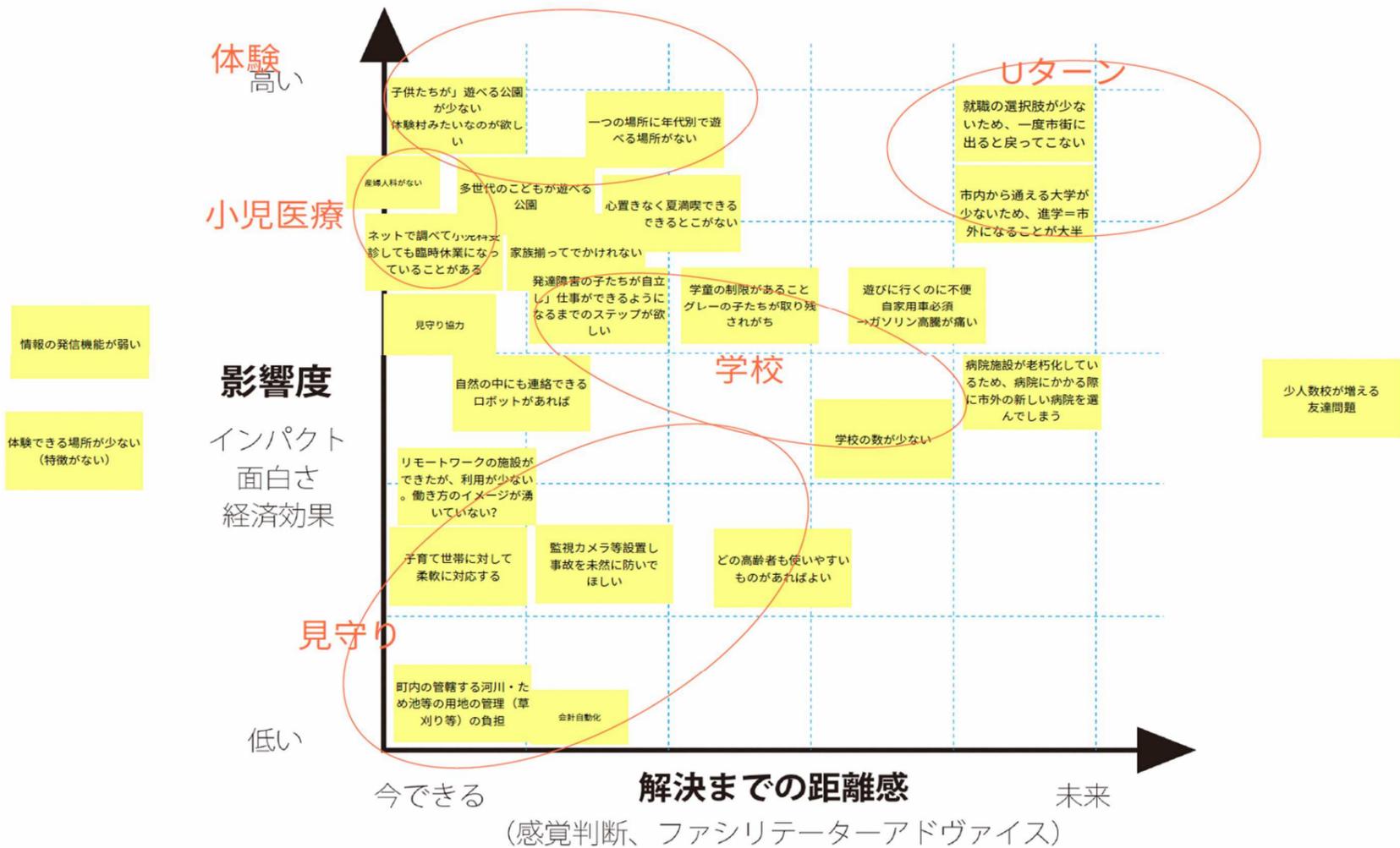


ステップ③困りごとを評価して、取り組む課題を決定しよう：

15min

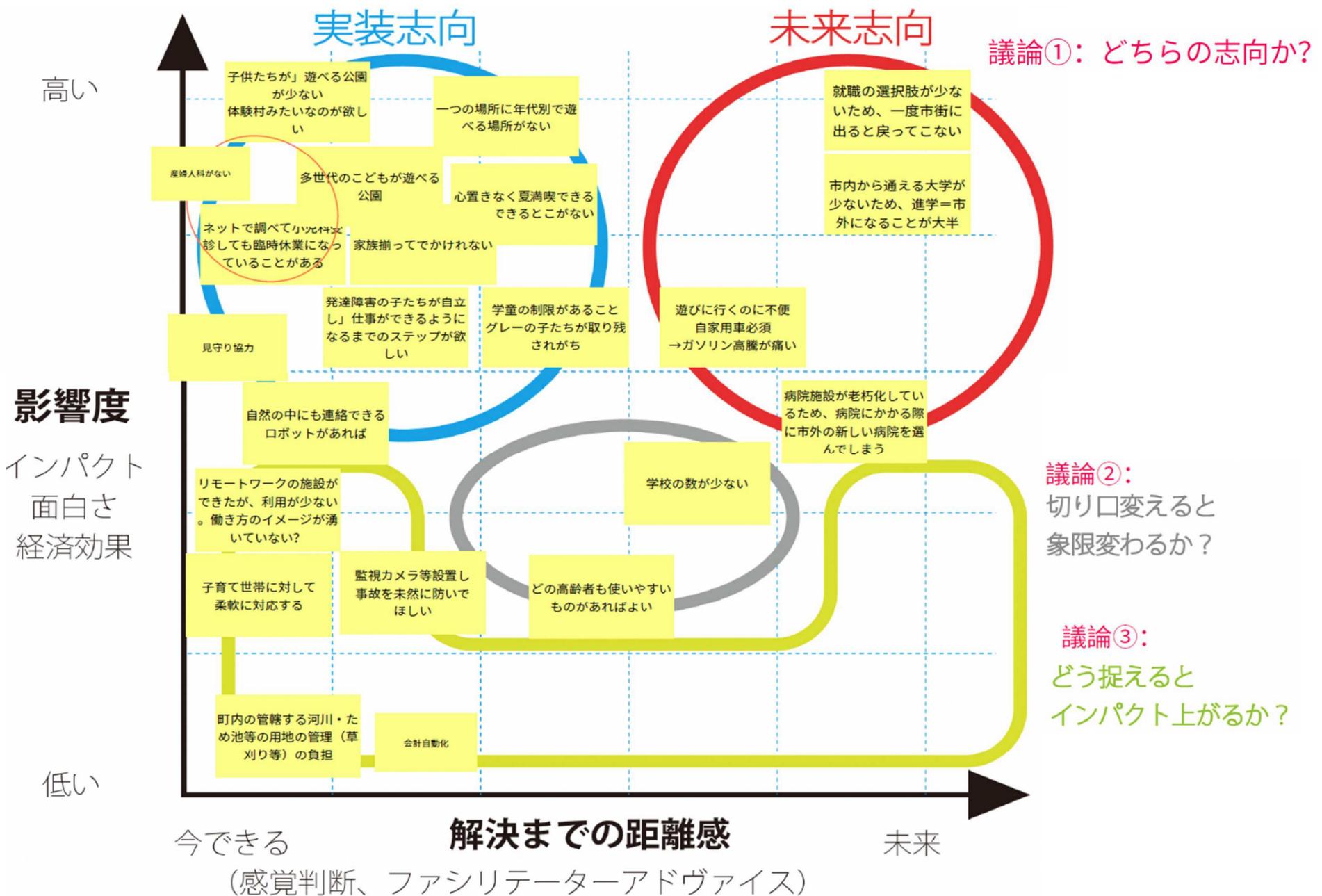
- ・ 共通性のある項目をグループ化→表題を付ける→わかりやすいグループを基準に置いて、上下左右グループごとに配置してみよう。
- ・ 項目に出てきた問題、課題をグラフに評価して、今回はどの問題解決に取り組むか決定しよう。

どんな困りごとがあるか？



コピーして移動してみよう

どんな困りごとがあるか？



ステップ④決定した取組課題

重要度を話し合っ、3つの課題をピックアップしよう

■取組課題:

学校
体験

少子化が進み学校の存続が「
危うい 学童も年齢制限もあり
子育て世帯がしんどい。人口
増につながりにくい

障害有り無し関係なく子供に
とっての体験経験はとても大
切 夢につながったり仕事に
つながったりとても大切に重
要だと思う

■取組課題:

子供医療

決定した理由:
産婦人科がないため市外に
出ていくしかない
市内でお金を落とせないから
加西市内の盛り上がり欠ける

■取組課題:

Uターン

決定した理由:
若年層の定着が今後必須。進
学で外に出てしまう以上、戻
ってしやすい環境づくりが必
要。製造に強いまちとしての

見守り

決定した理由:
安全確認に機器があれば
効率よく、だれでもすぐに必要
なところに情報が送られる。携
帯を操作する、対面で確認す
る手間も省ける。建物だけでなく
自然の中にも見守りセンサー

5分ほどの発表を行います。発表者を決定し

ステップ①ターゲットとプレイスのピックアップ:

- ・まずはひとりずつ「直感的に」スマート化の対象としたいターゲットとプレイスをピックアップして右のマスに入れてみてください。
- ・なんでそれが気になったか？ 発表しながら議論して、最後はみんなでそれぞれ4つにしぼって決定してください。
- ・人によって気になっている対象が違うことや、自分では気づいていなかった問題意識に目を向けてみよう。

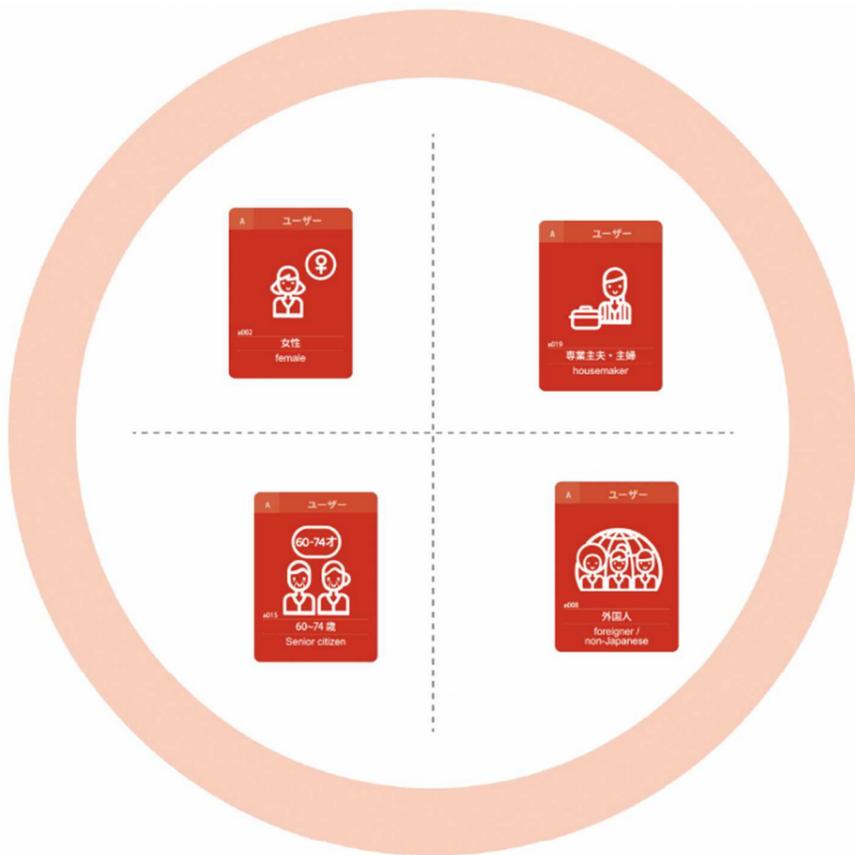
一人ひとつずつ選んでください

カードをコピーし右のマスに移動してください



決定カード

なぜそのカードを選んだのか？ 発表して共有してください。
 決定ターゲット 4つ 決定プレイス 4つ



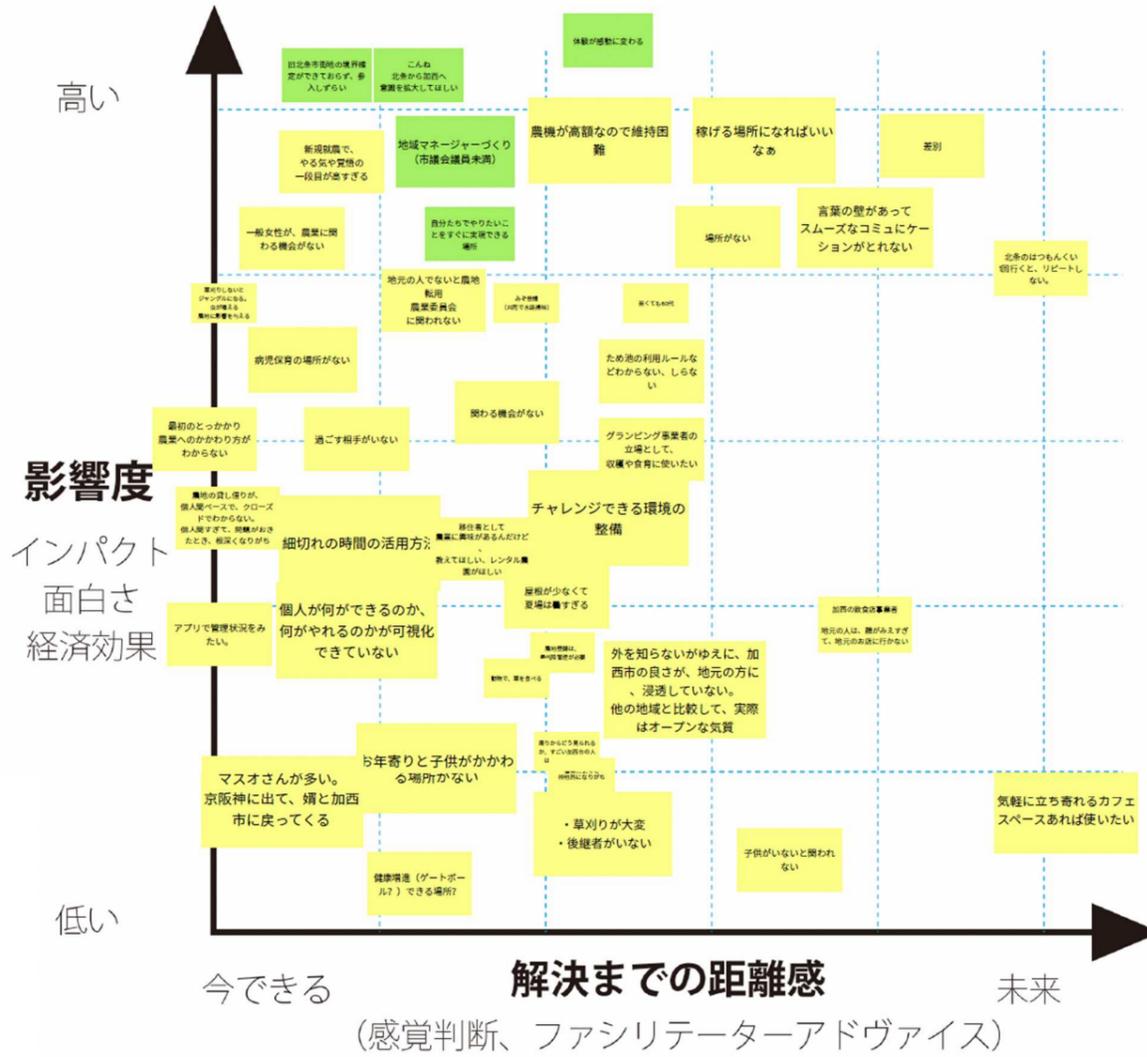
最後は議論して4つずつ決定してください。

ステップ③困りごとを評価して、取り組む課題を決定しよう：

15min

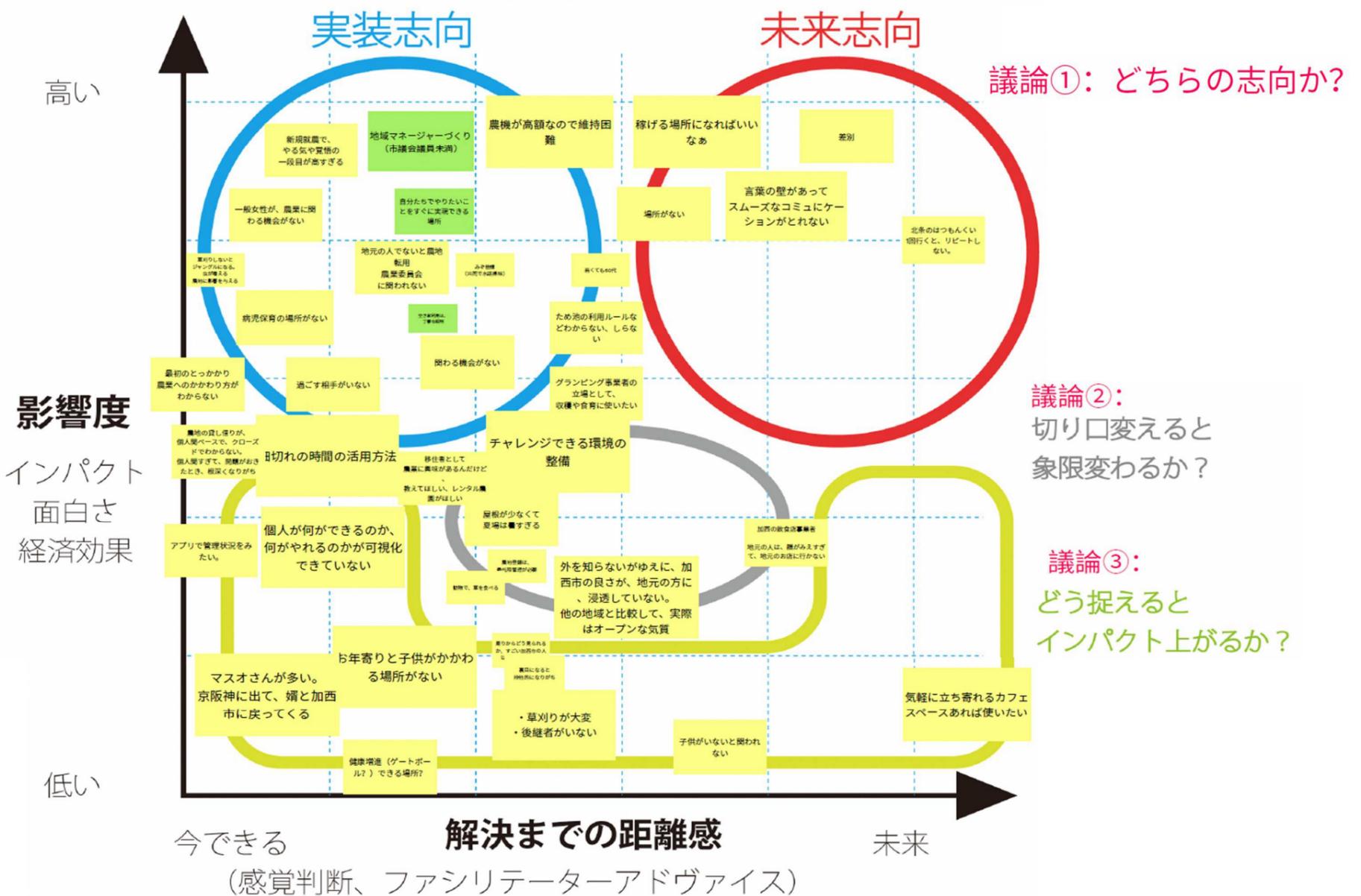
- ・ 共通性のある項目をグループ化→表題を付ける→わかりやすいグループを基準に置いて、上下左右グループごとに配置してみよう。
- ・ 項目に出てきた問題、課題をグラフに評価して、今回はどの問題解決に取り組むか決定しよう。

どんな困りごとがあるか？



コピーして移動してみよう

どんな困りごとがあるか？



ステップ④決定した取組課題

重要度を話し合っ、3つの課題をピックアップしよう

■取組課題:

加西市に地域の渦を作りたい

決定した理由: オンライン上で市民団体(バーチャル町長)を立ち上げ、市民の声を吸い上げ、街づくりにつなげていく

■取組課題:

空き家の活用をポジティブにしていきたい。

決定した理由: 人に空き家を貸すことがネガティブにとらえられがちなので、空き家を活用すること自体が名誉になるような仕組みづくり

■取組課題:

農地×若者、女性

決定した理由: 農地があるのに活用されていないのが現実。制度の問題もあるが、気軽に農業を始められるようにしてほしい。若者・女性が稼げる農業になれるように

ステップ①ターゲットとプレイスのピックアップ:

15min

- ・まずはひとりずつ「直感的に」スマート化の対象としたいターゲットとプレイスをピックアップして右のマスに入れてみてください。
- ・なんでそれが気になったか？ 発表しながら議論して、最後はみんなでそれぞれ4つにしぼって決定してください。
- ・人によって気になっている対象が違うことや、自分では気づいていなかった問題意識に目を向けてみよう。

一人ひとつずつ選んでください

カードをコピーし右のマスに移動してください

ユーザー (A)

- #19 専業主夫・主婦 housemaker
- #20 公務員 civil servant
- #21 パート・アルバイト part time job
- #22 男性 male
- #23 女性 female
- #24 LGBTQ Sexual Minority
- #25 赤ちゃん baby
- #26 小中学生 elementary and junior high school student
- #27 高校生 high school student
- #28 大学生・専門学校生 college / vocational school student
- #29 外国人 foreigner / non-japanese
- #30 サービスロボット service robot
- #31 10代 10's / teenager
- #32 20代 20's
- #33 30代 30's
- #34 40代 40's
- #35 50代 50's
- #36 60-74歳 60-74 Senior citizen
- #37 60-74歳 60-74 Senior citizen
- #38 自営業 self employed
- #39 会社員 employee

プレイス (B)

- #101 公共空間 (公園等) public space
- #102 病院 hospital
- #103 学校 school
- #104 ホテル・旅館 (宿泊施設) hotel
- #105 小売店 retail store
- #106 レストラン・飲食店 restaurant
- #107 勤務先・職場 workplace
- #108 駅 station
- #109 空港 airport
- #110 住居・自宅 home
- #111 農地 farmland
- #112 河川 river
- #113 河川 river
- #114 森林 forest
- #115 道路 road
- #116 民有地・私有地 private land

決定カード

なぜそのカードを選んだのか？ 発表して共有してください。
決定ターゲット 4つ **決定プレイス 4つ**

最後は議論して4つずつ決定してください。

ステップ②：困りごとを可視化してみよう： 25min

・①で決めたカードを縦横に置いて、それぞれの項目に困りごとを書き込もう（想像、ヒアリング、データからでもなんでも）

どんな困りごとがあるか？（想像、インプットから、普段の生活から）

ターゲット	プレイス	プレイス	プレイス	プレイス
60-74歳 Senior citizen	買い物に困る	交通手段がない	田んぼなどが離れていると移動に厳しい 父連手段がない	健康のために散歩する方にやさしくない 通勤時の交通安全 歩道が少ない
男性 male	日本初上陸が欲しい（笠） 目新しいものが加西にあれば活性化できそう	飲みに行けない。ストレス発散できない。 閉店時間が早すぎる	スーツ姿でもできる農業 安全で、茶そんで儲かす テクノロジーを駆使して農業を変える	主要地域への放射線状バイパスの建設 工場誘致 法人税はなしも、従業員は加西に住んでもらう（住民税） 加古川へは道路が1本しかない
30代 30's	店がありません。 バスがあっても利用するとは限らない	みに行ける店が少ない。 お店などが散らばっているのでまとめば	水ため管理 農業はとてかく大変 将来の農地の担い手 若い世代への継承	通勤時道が狭いので、中学生や高校生（自転車通勤）と接近して危ない。
小中学生 elementary and junior high school student	駄菓子屋の復活！！ 買い物という勉強をする機会がない	お小遣いで食べられるお店があればいい 買いに行く場所がない	コンバインを動かせる中学生！ どんなふう作物ができていくかを知る	車道に十分な歩道の幅がないので車にぶつかりそう。 農地で遊ぶ

発想に困ったら、このカードを置いてシチュエーションを想像してみよう

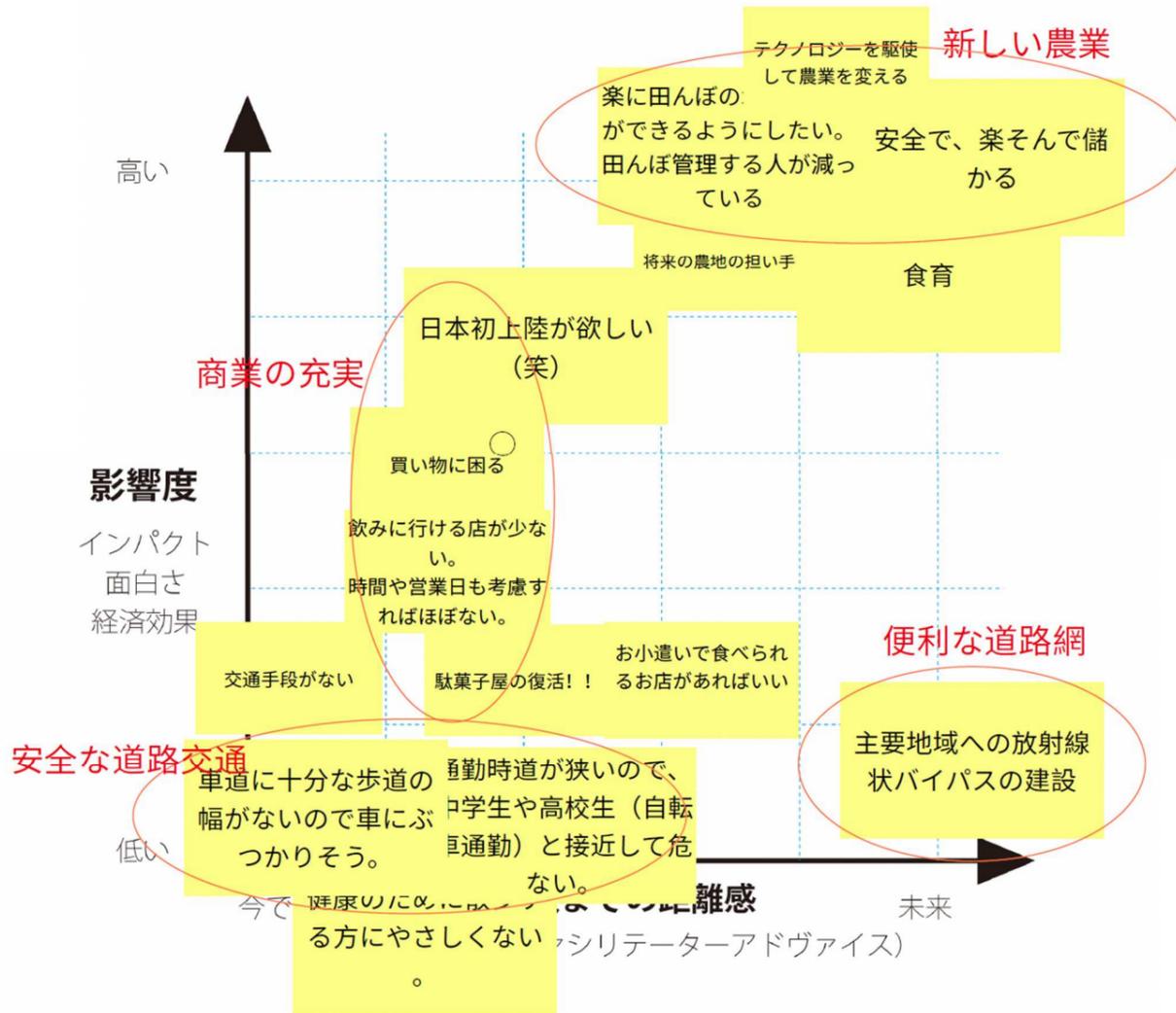


ステップ③困りごとを評価して、取り組む課題を決定しよう：

15min

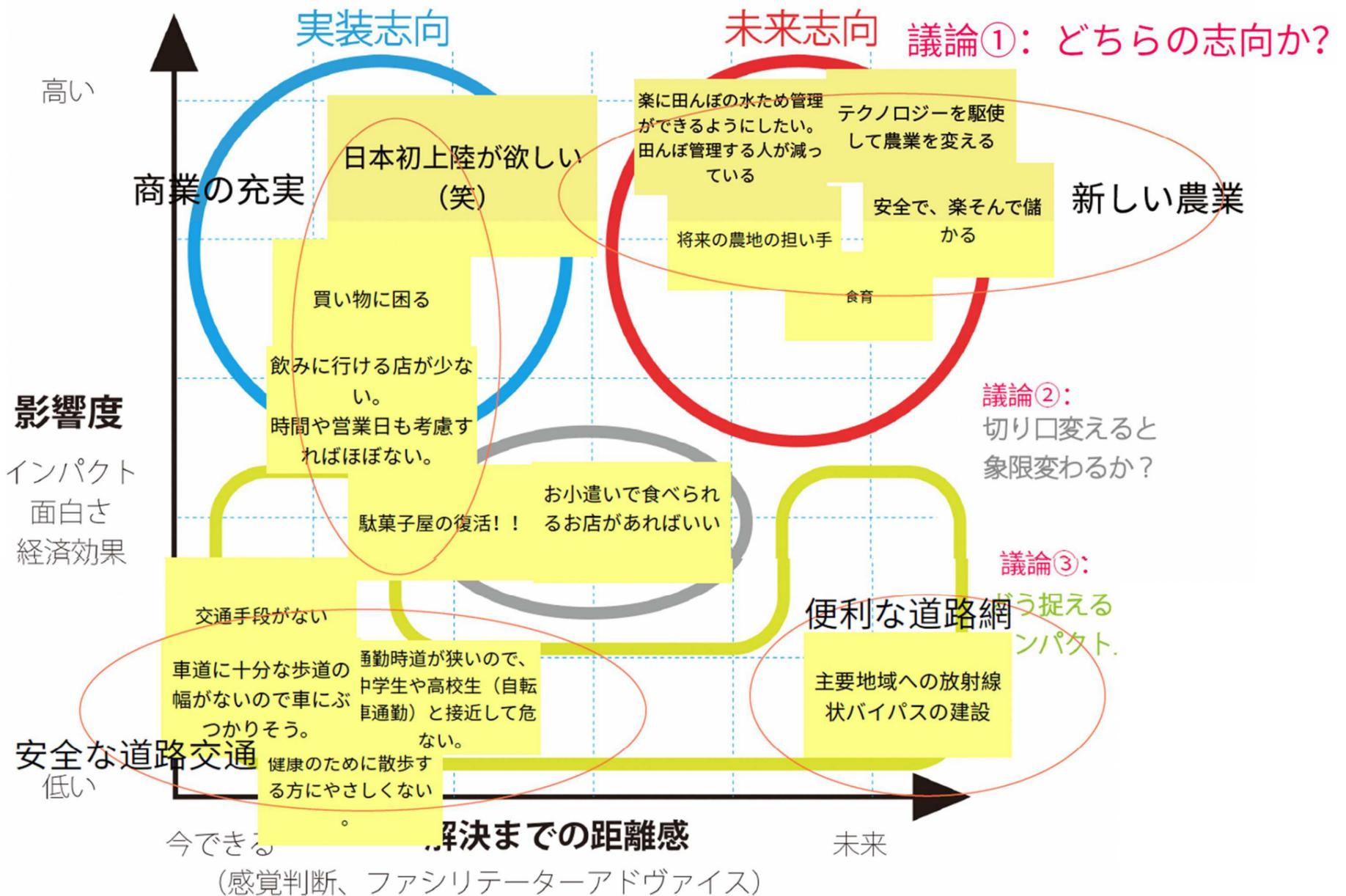
- ・共通性のある項目をグループ化→表題を付ける→わかりやすいグループを基準に置いて、上下左右グループごとに配置してみよう。
- ・項目に出てきた問題、課題をグラフに評価して、今回はどの問題解決に取り組むか決定しよう。

どんな困りごとがあるか？



コピーして移動してみよう

どんな困りごとがあるか？



ステップ④決定した取組課題

重要度を話し合っ、3つの課題をピックアップしよう

■取組課題:

商業の充実

決定した理由:
泉町には飲食店などの商業施設が少ない、買い物が困る
⇒子供や若い世代が楽しめる
商業施設を誘致
⇒地産地消の店
⇒食育の場
⇒農業&商業の日本初の施設

■取組課題:

新しい農業

決定した理由:
農業の担い手が少ない
※営農組織が強くて参入しづらい
農業の労力が大変
⇒ロボットを活用した自動化
⇒作ったものをその場で調理
⇒子供たちに農業の伝承

■取組課題:

安全な道路交通 便利な道路網

決定した理由:
道路が狭い、交通手段が少ない
⇒泉町を下支えするネットワークの再構築(自動運転等)